

幼小中一貫校づくりに関するQ&A⑥

平成27年11月25日発行

「福部未来学園」の開校まであと4か月ほどになりました。

11月7日（土）、8日（日）の「ふくべ公民館まつり」の際に、幼小中一貫校開校に向けての取組を、パネル展示で紹介しましたが、ご覧いただけただでしょうか？

さて、今回は来年4月の開校時の学校の様子についてご質問をいただいていますので、お答えします。



Q1 「平成28年度福部に幼小中一貫校開校！」ってあるけど、来年以降「福部未来学園」はどのような形になるの？

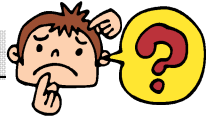
A1 平成28年度から福部地域幼小中一貫校「福部未来学園」が開校します。ただし、幼稚園、小学校、中学校の園舎、校舎は「現状のまま」での開校となります。以下におおまかな今後の動きについて一覧にまとめましたので、ご覧ください。

	平成28年度～「施設一体」型校舎になるまで	「施設一体」型校舎になってから
学校園の形態	「施設分離型」校舎 幼稚園は現在の「すなっこ園」の場所で、小・中学校も現在の場所で開校を迎える。	「施設一体型」校舎 幼稚園・小・中学校は、現在の小学校をベースにした校舎に入る。
学校園の名称	正式名称はそれぞれ「福部未来学園幼稚園」「福部未来学園小学校」「福部未来学園中学校」となる。※保育園は「福部保育園」となり、保幼一体型施設の名称であった「すなっこ園」という名称は使わなくなる予定。	小・中学校は「福部未来学園」という名称で統一される。幼稚園はそのまま「福部未来学園幼稚園」となる。
学校組織	運営・管理上それぞれに園長・校長を置く。学校組織もそれぞれの学校園で編成する。	幼小中一体の学校組織を編成する。
教育内容	「幼小中一貫教育」として実施し、特色ある教科としての「みらい科」の学習が始まる。	「幼小中一貫教育」のさらなる充実を図る。
入学（入園）式 卒業（卒園）式	幼稚園・小学校・中学校それぞれで行う。	「福部未来学園幼稚園」「福部未来学園」の入学（入園）式・卒業（卒園）式として行う。
児童生徒の学校生活	生活時程、登下校の方法、制服、体操服等について、現状を継続しながら検討・準備を行う。可能なものについては適宜変更を行う。	決定した内容をもとに本格実施する。
PTA組織・活動	幼稚園・小学校・中学校それぞれで行っていく。※合同執行部会を何度か開催し、	幼小中一体の組織とする。

規約や組織についての話し合いを進めており、一体となった際にも円滑に移行できるよう準備を行っている。

幼稚園・小学校・中学校が同一建物内にある「施設一体型」校舎となるのは、現段階では平成30年度以降となっています。ただし、以前Q&Aでお答えしたように、「最短」で平成30年度ということですので、校舎の改築・増築の進行状況によっては延びる可能性もあります。

Q2 「学校」に関する法律が変わったって本当?



A2 本当です。福部地域が幼小中一貫校開校に向け準備を進めている間、国の方でも「小中一貫教育の制度化」に向けての大きな動きがありました。

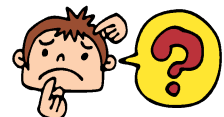
平成26年10月30日に「福部地域に新たな幼小中一貫校を設置する」という鳥取市校区審議会答申が出された約2か月後、12月22日に国の中央教育審議会が「小中一貫校の制度化」に係る「学校教育法等の一部改正」についての答申を出しました。そして、国会で審議された結果、今年（平成27年）6月24日に「学校教育法等の一部を改正する法律」が公布され、平成28年4月1日から施行されることとなったのです。

今回の法改正は、学校教育制度の多様化及び弾力化を積極的に進めていくために、現在ある小学校・中学校に加え、小中一貫教育を実施することを目的とする新たな学校の種類「義務教育学校」の制度を創設するというものです。

「義務教育学校」とは、小学校と中学校が「一体」となった組織体制の下で9年間一貫した教育課程による教育を行う学校を表します。現行の小・中学校の「学習指導要領」にもとづくことを基本としたうえで、学校独自教科の設定、指導内容の学年・学校段階間の入替え・移行など教育課程の特例も認められます。それだけ、小中一貫教育が重要視されているということもあります。ただし、この制度はあくまでも「義務教育」である小学校・中学校が対象となっています。

Q3 「施設一体型」校舎実現に向けて

取組は進んでいるの?



A3 9月11日（金）、幼小中一貫校の開校に向けて、設計等に関する打合せを行いました。この打合せは、以前お知らせした、国の「学校施設計画・設計プロセス構築支援事業」によるもので、東洋大学名誉教授・教育環境研究所所長の長澤悟先生と文部科学省の担当者2名をお迎えして行いました。

まず初めに、幼小中一貫校「福部未来学園」のベースとなる小学校の校舎の見学を行いました。長澤先生は、「学校を造った大人の思いをしっかりと子どもたちが受け止め、30年間大切に使われてきたことがよく分かる」と、校舎のコンディションの良さに驚いておられました。既存の校舎を活用した「幼小中一貫校のモデル」として、また校舎の「長寿化」の取り組みとして、今後注目される事業になるとのことでした。

見学の後、引き続き「幼小中一貫校教育環境部会」を開催し、全国の先進的な取組を紹介していただきながら、具体的な設計イメージがもてるお話をさせていただきました。

現在、具体的な設計等について、市教委や地元の設計コンサルタントと協議を重ねながら、設計図面を作っているところです。地元の設計コンサルタントは、鳥取市の「山下設計工房」が担当することに決定し、山根秀康さんが事業担当として図面の作成等を行っています。ちなみに山根さんは福部小学校の保護者、そして小中一貫校推進委員会のメンバーでもあります。

文責：幼小中一貫校推進委員会啓発部会 長石 彰(福部中学校教頭)